

講演3

「発達障害ではなく発達潜在」の天才の卵たち

学校法人池上学園

理事長 池上公介

いままで知的障害や学習障害とひとまとめでいわれていたものがこのところになってようやく、LD、ADHD やアスペルガー症候群などの広汎性発達障害は少しずつではあるが世間に認められてくるようになってきた。

ひきこもりや不登校の要因が、かなりこのことによるものであることも分かりだしてきた。コミュニケーション能力の不足や極端な能力の偏りが学校生活や社会生活において周りから受け入れられてこなかったのである

28年まえにトップ高校の受験に失敗し、15の春を泣いた子ども達を本来は救うための予備校が計画倒産をして子ども達が放り出されたとのニュースに接した私は、彼らを助けるために私財を投じて中学浪人予備校を開校した。そしてあらゆる生徒達と出会い、開校4年目に学力不振でどこの高校にも入れない子ども達がいることを知り、なんとかしたいと考え彼らを受け入れた。全校ビリ、通信簿中学3年間オール1と言う生徒たちだった。しかしどの子も、その子その子の分かる所まで下がっていき、その子に合ったペースで認めてあげながら教えていくと、必ずその子なりに伸びていった。ひとりひとり顔が違うように、一人ひとり成長の速度が違うのである。一把ひとからげの集団授業では落ちこぼれや浮き上がりが出るのは当然のことである。

そして時がたつにつれ、登校拒否、あとになって不登校と呼ばれる子ども達が増えてきて救いを求めてくるようになった。不登校の生徒達と色々と接して、かれらと長い間かかわってきた、その過程で、その子たちの中でこれはある意味で普通でないと感じる子たちが結構いたのである。音に関してとても敏感に反応するものや、相手の話は聞かないで一方的に自分の話しかしなかったり、数字にずば抜けたものを持っているのに、文字には関心が無いとか、興味のあることには抜群の記憶力があるが、興味のないものには振り向きもしない、または完全に無視してしまうなど。又ある生徒はテストのとき、まったく回答欄は白紙で、裏返してみると、テレビのありとあらゆるコマーシャルが紙の隅から隅まで、びっしりと書かれていたのである。アスペルガーの生徒たちの出会いであった。かれらのなかには普通でない特別な能力を持っているものが少なくないのである。何か素晴らしいものが深く潜在されているのではないか。過去にはアインシュタインや今はビル、ゲイツもアスペルガーだとのことである。私が発達障害ではなくて発達潜在というのはこのことから言うのである。もしかしたら「天才の卵」かもしれない。大事に育てて行くことが求められるのではないか。